なぜあいりんかになぜこだわるのか

朝日新聞に対する抗議の経過・"海陸風"補足

一一月一日付の記事に"あいりん賞"という見出しを使ったことについての抗議は、もうしない約束であった。それは、納得したからではなく、あまりの阿房らしさからであった。"あいりん地区"の呼称について、もう一度取り下げた記事を掲載する、ということだったので、それを読んで、それに対して意見を伝えるか、より良く発見が伝えられるようにも思えたからでもある。

だが、やはりあさらいが必要なようだ。しかし、これは抗議のやり直しでなく、"海陸風"にまかれている抗議の要約に対する補足として。

"あいりん賞"の見出しに対する抗議

①自分達で決めたことは大事に守りたい

"労務者浪世賞"というのは、労務者浪世編集委員会で決めた固有名詞です。通称は"浪世賞"です。この名称は編集委員会で考えろ

ことを決めるという手続きを経ない限り、誰にも変えることの出来ないものです。

②無理もある

昨年一一月二四日付朝日新聞(夕刊)の"ウラかんレーダー"にやはり"浪世賞"の紹介がありますが、この記事中に"あいりん"の呼称が出ているのは一ケ所だけです。

"景新の十八号では活動拠点の「釜ケ崎」が「あいりん」と改称された問題を取り上げ、「愛隣」という呼び名は行政側の押しつけだ。多くの労働者は釜ケ崎と呼ぶ」と主張した。

なぜそうなったかというと、その時の担当記者であった法花さんと三十分近く"あいりん"という名称を使うかどうかで話し合ったからです。法花さんは、社内の規定もあるし、それにどこだわる理由も充分にあみ込めないけれど取材対象のあなたが嫌っているのだからなんとか"あいりん"呼称を使わないように努力し

なぜあいりんか?

偽善と押しつけの呼称

一九七七・一一・一朝日(朝刊)

一九七七・一二・二五朝日(朝刊)

てみましょうと約束し、実行した。

その後に対して、当局が黙いではないですか、一年もたたないうちに。あいりんぞっなんて見出しを付けられて騒っていては……。同じ朝日新聞でもあるしね。

③生命線論

私たちは、〝浪世〟一八号において、〝あいりん〟という言葉の中にある侮蔑的なにおいはもちろん、労働者の立場から提唱された呼び名ではないからだし、だいたいしらじらしい。もちろん「あいりん」と決めた人間の中に、労働者の代表がいるかといえば、もちろん一人もいない。

誰も使いたがらない使わない「愛隣」「あいりん」という呼び方。じゃあなぜ〝あいりん〟なのか、ということを考えてみようということで、この特集を組んでみた。

特集の中では、釜ヶ崎という呼びかが〝あいりん〟とあらられ、同時に「暴動」が「騒動」に言いかえられた経過を昭和四一年五月～六月の関連新聞記事を再編集して掲載し、これらの言葉の言いかえが、治安対策強化の言葉上のあらわれであることを明らかにしました。

（特別隊・警察の力で労働者を押え込むと同時に、労働者が日常的に使う地名を官製のものを押し付け、精神的にも圧迫しよう、というのが言葉の言いかえ狙いです。）

そしてまた、特集ではアンケートとインタビューでもって、言いかえから一〇年たった今も、〝あいりん〟支持派がごく少数であることをも示しました。

特集の内容を長々と説明したのは、単なる思いつきやいきがかりだけでっあいりん党の見出しにしっこく抗議したのでないことを良く判って欲しかったからです。

・〝浪世〟が特集を組んで「あいりん」の名称について否定的な立場を明らかにしている以上、いくら他人様がやったこととはいえ、〝浪世〟の紹介に「あいりん」の名称が付けられているのを見すごすことは、自らの立場の放棄となり、〝浪世〟の死につながることなのです。

更にいえば、〝労務者浪世〟は、釜ヶ山・山谷に代表される全国寄せ場労働者に対してあけられている目、〝社会からの落伍者の集り。非人間的な生活を送る人々〟といったものを、真っ向から否定することによって寄せば労働者の立場を主張するのではなく、自分達の生活を再確認することによって、ともすればせ間の見方に流され、自己規定し、萎縮しがちな労働者の自覚が強固なものとなり、各個々人が、それぞれに自分の生活をより以上に謳歌できるようになれば、と思って、釜ヶ崎を拠点とし、全国の寄せ場の内へ向けて発行を続けている雑誌です。

だからこそ、オカミから、労働者の精神を圧迫する意味合いでおこなわれた「あいりん」という名称の押し付け、言葉の刀狩りには反対の立場を表明しているし、朝日新聞の、そんなつもりでなかったにしても、〝あいりん党〟の名称の押し付けに対して強く抗議したわけです。

他からの押し付けにはがんばり続ければ、その人の精神は萎縮し、やがて死にます。〝労務者浪世〟も同じことです。

なぜあいりんか、た、なぜこだわるのか、お判り頂けましたでしょうか。

本当はこのような理屈は雑誌の表面に出したくなく、ただ歌と雑誌を出し続けたかったのですが、〝陸海風〟の抗議の要約に対する補足として必要だと思いましたので、敢えて書きました。

そうでなければ、言葉だけが固定するジジイ、と受け取られかねないので。

朝日新聞・吉川記者の言い分

こちらの言い分ばかり書きました。今度はアナタが使われた言葉に即して、何故最後まで私が納得しなかったかを伝えましょう。

アナタは、こう云われました。

〝見出しは強調するためにつけたもので、〝あいりん党〟と付けたことは不適当だとは思う。しかし、訂正記事にはなじまない。それほど大きな間違いだとは思われない。

事実として〝あいりん〟の名称は使われており、あいりん地区での党という意味で、〝あいりん党〟ということ、比喩はさほど無理のないものだと思う。

正式名称が〝労務者浪世賞〟であることは、記事を読めば判る。

そして、これは内部規定だから対外的に主張できることではないが、釜ヶ崎については、〝あいりん地区〟という名称を使うという規定がある。

説明の中で判りにくかったのは〝（今もって判らないのですが）、〝浪世賞〟の比喩がどうして〝あいりん賞〟なのか、です。どうせ比喩ならこの比喩が成立するのか、今もって判らない。私が最初この見出しをみた時は、伝伝コーナーが新手を考えたんかいな、と思ってちょっとすごしてきた。後で人から〝浪世賞〟のことだと聞いて大ビックリ。やはり、一本見出しでは、あれを比喩と受けとることは無理なんじゃないでしょうかね。

〝あいりん地区〟という名称が、お役所臭んかで使われている、という事実は認めます。しかし、〝浪世〟がその名称を認めておらず、釜ヶ崎という名称を使っているのも事実です。せめて、〝浪世〟のことを書く時ぐらいはこっちの事実に立って下さいませんか、そして山が公正・中立な新道だと思いますが、無理な話でしょうか。

この話を編集者の一人であるアシュウに話したところ、〝アホやなあ、そんなもんにこだわるからあかんのや、青ヒゲからも応募がきてるやろ、〟浪世賞〟は釜だけの賞やないやろ、全国の浪世協会員の賞や、そういうたらよかったのに。〟とおこられた。

朝日の内部規定について言えば、〝あいりん地区〟という見出しは、ある地区をさして使われているのでなく、釜の労働者と関連した場合にのみ使われている。しかも、秘密の区分でいえば、〝あいりん地区〟内の〝あえ市屋地区〟での事件。あえ市屋市街で火事が起きても、〝あいりんで火事〟の見出しにはならない。

これは差別ではないか、と大上段に振りかぶっていわれるが、筋役さに寄りかかるのなら、〝釜ヶ崎〟を使ったらどうでしょう。

無手なことばかり書きましたが、吉川さん・朝日新聞の対応にケチを付けているわけではないのです。ただ内容について意見を伝えたかっただけなのです。また遊びに寄って下さい。（ヤ）

第二回浪世賞入選者の声

〝二人のアンコ〟

豊川信雄さん

前略　五千円と手紙、有難う御座居ました。

まさか僕の物が佳作に選ばれるとは思ってもいませんでしたのでびっくりしました。

今回は小説での入選作がなかったとの事ですが、募集しているのを知らなかった人が多かったんじゃないかと思います。

そこで提案ですが、毎年何月に募集するというように決めておいて、毎号その事を伝言するようにしたら、良い作品が集まるんじゃないかと思います。

僕も大雑ぱな気持で書いた事を後悔しました。本腰を入れて、日時掛けて書いたら、良い作品が仕上げられたかもしれないと思うと残念です。

もし、僕の物も発表して下さるのでしたら、そのままでは不満だとの気持ですが、最初の応募ですからもうそれで我慢します。

〝一畳半のドヤから〟

鈴木景久さん

鈴木さんは、ぼうはんパーナーが出したのぼうはんコーナーだより、特集第四号〝あいりん労働者の詩集〟を読み、それに反発して三日徹夜をして休んで〝一畳半のドヤから〟を書いたということです。

どんなところに反発を感じたのか、〝あいりん労働者の詩集〟から〝A生〟さんの〝雨にみる夢〟という詩を紹介してみましょう。

雨はなる　昨日もら日も／私の心　知らぬげに／雨音はげしく
またも降る／仕事なしか／浮かれぬ顔よ　あの顔も／だがくじけぬ我等　釜の男よ
明日はやるぞと　誘らう顔よ／心の弱さに　負けはせぬ／私は
釜の男よ
そのうち晴るよ　お母さん／今度かえれば／かあさんの　肩をたたく／そんな夢みる私だよ

釜にもいろんな人が居るから、こんな詩を書く人がいても不思議はないが、〝こんな詩〟の詩をこっだけのせているのに反発を感じたらしい。〝明日も頑張ろう〟とか望郷の念を美しくうたいあげるばかりが釜人間じゃないぞ。というところかな。